

---

認知症の人が安心して暮らせるまち・東京を目指して

---

シンポジウム

# 「認知症になっても 今を生き生きと 暮らせるために」

---

開催日時：平成19年9月13日(木)

開催場所：東京都庁第一本庁舎5階 大会議場

シンポジウム：13:30～16:40

内容：[14:00～15:00]

基調講演「認知症と向きあうために—大切な“今”を支える第一歩は医療から—」

新井 平伊 氏 (順天堂大学医学部教授)

---

[15:15～16:40]

パネルディスカッション

テーマ「認知症になっても今を生き生きと暮らせるために」

コーディネーター 服部 安子 氏 (浴風会ケアスクール校長)

パネリスト 加藤 芙貴子 氏・芳郎 氏 ご夫妻 (認知症のご本人とご家族)

新井 平伊 氏 (順天堂大学医学部教授)

小山 隆 氏 (株式会社アサヒ・スタッフサービス アサヒ・デイサロン)

林田 俊弘 氏 (NPO法人ミニケアホームきみさんち理事長)

---

## シンポジウム開催にあたって

現在、認知症による何らかの症状を有する高齢者は都内で約23万人、65歳以上人口の約1割と推計されています。東京では、今後、急速に高齢化が進むことから、認知症の方も急増すると予測されます。

認知症の人は記憶障害や認知障害から不安や混乱に陥りやすいことから、周りの人との関係が損なわれることも少なくありませんが、周囲の理解と気遣いがあれば穏やかに生活していくことも可能です。

さらに認知症高齢者の半数以上は自宅で生活していることから、住民や生活関連事業者も参加して地域全体で認知症の方や家族を見守り支援していくことが強く求められています。

そこで、東京都では、より多くの都民・事業者の方に認知症を身近な問題として捉え、地域における支援について考えるきっかけとしていただくことを目指し、平成18年度に「認知症高齢者を地域で支える東京会議」を運営するとともに「認知症の人が安心して暮らせるまち・東京キャンペーン」を実施しました。

また、今年度は、「東京都認知症対策推進会議」を設置し、認知症の人や家族に対する具体的な支援体制の構築に向け、検討を始めました。

さらに、認知症に対する正しい理解の促進を図るため、今年度から「世界アルツハイマーデー」にあたる9月にシンポジウムを開催することとし、本日がその第1回となります。

今回は、認知症のご本人とご家族、そして、その生活を支えている方々をお招きして、当事者として感じていること、ご本人・ご家族に対する支援のあり方についてお話しいただきます。

ご参加の皆さまが、地域の中で自分らしく暮らしたいという認知症の人と家族の思いを知り、その思いをかなえるためにどのような支援が必要なのか考えるきっかけといただければ幸いです。

---

順天堂大学医学部精神医学講座教授

**新井平伊** (あらい・へいい)

[プロフィール]

順天堂大学医学部精神医学講座教授。

1953年茨城県生まれ。順天堂大学医学部卒業。順天堂大学大学院修了後、東京都精神医学総合研究所精神薬理部門主任研究員、順天堂大学医学部講師を経て、1997年から現職。

専門領域はアルツハイマー病の基礎と臨床を中心とした老年精神医学。

主な著書に『最新アルツハイマー病研究』『アルツハイマー病のクリニカルパス』（ともにワールドプランニング）『アルツハイマー病のすべてがわかる本』（講談社）がある。

日本老年精神医学会理事、日本神経精神医学会理事、国際老年精神医学会（IPA）理事。